

**平成 26 年度**

**長野県公共事業事後評価について**

平成 27 年 1 月

長野県公共事業評価監視委員会

# 目 次

1. 本年度の審議対象事業の考え方	・・・ 1
2. 審議結果（意見書）のとりまとめ方	・・・ 2
3. 事後評価事業に関する委員会としての意見	・・・ 3
(1) 県営ため池等整備 河南（伊那市）	・・・ 3
(2) 山地治山 内の萱（伊那市）	・・・ 3
(3) 道路改築（国）406号 百瀬～茂菅バイパス（長野市）	・・・ 4
(4) 抽出以外の箇所	・・・ 4
4. おわりに	・・・ 5

# 平成 26 年度 長野県公共事業評価監視委員会 意見書

## ～公共事業事後評価対象事業に関する意見～

### 1. 本年度の審議対象事業の考え方

長野県公共事業評価（新規、継続、事後）実施要領では、事後評価にあたって長野県公共事業評価監視委員会（以下、「本委員会」という）から意見聴取を行う箇所は、県が評価を実施した箇所とされている。本年度は、県が評価を実施した全 9 件を本委員会で取り扱った。

昨年度、試行により全 10 事業種類のうち 3 事業種類について、本委員会からの意見聴取を実施した。（表-1 参照）

本委員会の設置要綱では、審議箇所について、県から事後評価案の提出を受け、各事業を取り巻く社会状況等を勘案して、本委員会が抽出するとされている。

委員会では、すべてについて説明を聞いたうえで詳細な審議対象事業として、公共事業所管部局から各 1 件とし、平成 25 年度試行事業以外を優先し、最終事業費の大きい以下の 3 箇所を抽出した。（表-2 参照）

- (1) ため池の整備等      県営ため池等整備      伊那市   河南
- (2) 治山・砂防          山地治山                  伊那市   内の萱
- (3) 主要な道路の整備   道路改築      (国) 406 号   長野市   百瀬～茂菅バイパス

表-1 事業種類別の審議実施数(平成 25 年度～平成 26 年度)

事業種類	H25 試行	H26	
	意見聴取	意見聴取	うち抽出
地すべり対策		1	
ため池の整備等		1	1
治山・砂防	1	2	1
河川の整備等		1	
主要な道路の整備		1	1
補完的な道路の整備	1	1	
道路付帯施設の整備		1	
農業基盤整備	1	1	
林業基盤整備			
公園の整備			
合計	3	9	3

表-2 平成 26 年度 事後評価実施箇所及び審議対象

単位:千円

事業種類	事業名	市町村名	箇所名	事業概要	工期	最終 事業費 (千円)	担当課	抽出 箇所
地すべり対策	急傾斜地 崩壊対策等	松本市	みやがち 宮測	擁壁工 L=63m 法留柵工 L=30m 法枠工 A=5270m <sup>2</sup>	H11~H20	269,000	砂防課	
ため池の整備 等	県営 ため池等整備	伊那市	かみな 河南	BOXカルバート L=196m BOX更正工 L=71m	H17~H20	94,185	農地整備課	○
治山・砂防	山地治山	伊那市	うちのかや 内の萱	溪間工 谷止工 3個 床固工 5個 流路工190m 護岸工170m 森林整備 30ha	H18~H20	231,564	森林づくり 推進課	○
治山・砂防	砂防	麻績村	おみ 麻績	砂防堰堤工 3基 H=12m L=91.2m H=10m L=44m H=10.5m L=55m	H14~H20	582,100	砂防課	
河川の整備等	広域河川改修	安曇野市	よるすけ 万水川 みなみほたか 南穂高	掘削護岸工 L=7,400m	S43~H20	7,508,600	河川課	
主要な道路の 整備	道路改築	長野市	(国) 406号 ももせ もすげ 百瀬~茂菅 バイパス	道路改築工事 L=4,220m W=6.5(12.0) 橋梁 4橋 トンネル 2箇所	S52~H20	12,510,000	道路建設課	○
補完的な道路 の整備	街路	千曲市	(都) 旧国道線 やしろ 屋代	拡幅改良工 L=440m	H13~H22	1,720,537	都市・ まちづくり 課	
道路付帯施設 の整備	交通安全 施設等整備	伊那市	(一) 車屋大久保線 とのしま 殿島	歩道設置工 L=600m W=2.5m	H17~H22	666,000	道路管理課	
農業基盤整備	県営畑地帯 総合土地改良	安曇野市	くろさわきた 黒沢北	畑地かんがい A=296ha 加圧ポンプ 15台 電磁弁 358ヶ 制御ケーブル L=21,946m 用水路 L=3,829m	H11~H20	822,000	農地整備課	
抽出箇所計								3

## 2. 審議結果(意見書)のとりまとめ方

本年度の意見書のとりまとめにあたっては、県案に対する審議結果と評価の判断理由に加え、審議中にあったその他の意見を事業ごとに記載する。

### 3. 事後評価事業に関する委員会としての意見

#### (1) 県営ため池等整備 河南（伊那市）

##### ■ 県案に対する審議結果：県の自己評価は妥当と判断する。

###### 【判断に至った理由】

- 「事業効果の発現状況」の評価項目について、水路の破損による周辺農地、人家、公共施設への浸水被害が防止され、用水が安定供給されていること。
- 「施設の維持管理状況」の評価項目について、河南土地改良区による定期的な点検・管理が行われ、非かんがい期には水路補修等が行なわれていること。
- 「地域住民等の評価」の評価項目について、事業の重要性が十分に認識され、事業に対して満足している評価が得られていること。

###### 《審議上のその他の意見》

- 本事業の実施経過を、採用した工法の活用を含めて、今後の同種事業計画に反映する必要がある。
- 農家の高齢化が進んでいるが、農家が減少し耕作放棄地が生じないようにソフト面でのサポートも行う必要がある。

#### (2) 山地治山 内の萱（伊那市）

##### ■ 県案に対する審議結果：県の自己評価(修正案)は妥当と判断する。

###### 【判断に至った理由】

- 「事業効果の発現状況」の評価項目について、事業完了後、施設を設置した溪流（板沢、西メツラ沢）においては、事業実施前の災害発生時と同程度の降雨であった日雨量 126mm（平成 23 年 9 月）においても土石流が発生していないこと。
- 「施設の維持管理状況」の評価項目について、長野県が定期的に点検管理を行っており、平成 20 年の事業完了以降、同溪流では、度重なる豪雨に見舞われているものの施工された施設に異常は認められないこと。
- 「地域住民等の評価」の評価項目について、土砂災害の復旧や森林整備の実施に伴い、自然環境の状況が良くなったとの評価が得られていること。

### 《審議上のその他の意見》

- 魚道の設置など可能な限り自然環境に配慮し治山事業を行っていく必要がある。
- 現場の経年変化に応じて、既存施設の効果等を確認し、より効率的な全体計画になるよう見直しを行っていく必要がある。
- 航空レーザー測量の成果を事業計画に活用していく必要がある。

## **(3)道路改築 (国)406号 百瀬～茂菅バイパス(長野市)**

### ■ 県案に対する審議結果:県の自己評価は妥当と判断する。

#### 【判断に至った理由】

- 「事業効果の発現状況」の評価項目について、時間短縮、交通量増加、災害危険箇所解消、通行規制解消、交通事故件数減少などの効果が定量的に確認できていること。
- 「施設の維持管理状況」の評価項目について、茂菅自治会による歩道除雪、沿道美化活動が行なわれていること。
- 「地域住民等の評価」の評価項目について、交通の利便性、安全性向上や地域貢献度で高く評価されており、非常に高い満足度が得られていること。

### 《審議上のその他の意見》

- 整備効果のわかる写真や整備効果を示したグラフを活用し、事業効果がわかりやすい評価シートの作成に努めること。

## **(4)抽出以外の箇所**

抽出以外の6件については、第1回長野県公共事業評価監視委員会において、県からの説明を聞く中で、事業効果の発現状況、事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化、施設の維持管理状況、地域住民等の評価、事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況等から各事業の県の事後評価案について妥当と判断した。

## 4. おわりに

本年度の事後評価は、県から意見を求められた9件のうち本委員会が抽出した3件について詳細な審議を行った。本委員会の意見は上記のとおりである。

事業の経過については様々であったが、県からの説明や現地の確認により、事業効果の発現状況や地域振興への貢献を理解でき、県案について妥当と判断したところである。

実施した評価手法はおおむね適正に実施されていたと考えられるが、よりわかりやすい評価とするために、今回は、各項目を記載する際の留意点を別紙のとおり付すことを提案する。

また、今後も公共事業評価におけるPDCAサイクルを充実させた制度の確立に向け、検討をさらに重ねていくことが重要である。

公共事業の一層の効率化、重点化とともに、その実施過程の透明性を向上させるため、今回の審議結果を公共事業評価や事業実施に十分活用されることを期待する。

最後に審議中にあった事後評価全体に対する意見を付す。

- (1) (様式6-1) 事後評価シートの「費用対効果」欄は、算出時点を記載する必要がある。
- (2) (様式6-1) 事後評価シートの「②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化」欄は、影響のプラス面、マイナス面、両面を記載し、総合的に評価する必要がある。
- (3) (様式6-1) 事後評価シートの「今後の取り組み及び同種事業への活用と課題」欄は、事業実施による反省を踏まえた改善点やプロセス上の評価、技術的な評価、予算規模上の評価、新規事業採択時における改善提案等について多面的に記載する必要がある。
- (4) 事後評価の結果を新規事業の計画策定・調査へ反映する公共事業評価のサイクルを確立していく必要がある。
- (5) (様式6-2) 事後評価写真シートは単に事業前、事業後の対比だけでなく、事業の必要性、経過、効果、課題等がわかるよう、多様な写真とコメントを加えることとし、さらに事業効果については、グラフや図表を活用して、よりわかりやすい資料とする工夫が必要である。

以 上

番号	○	事業名	○○○○	市町村名	○市	路河川名	(○)○○線 <(○)○○○号>	箇所名(ふりがな)	○○(○○○○○)
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○地域からの要望経緯とその対応</p> <p>○事業説明等の主な経緯</p> <p>○事業の進捗経緯</p> <p>○計画内容の変更経緯</p>					別紙	②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価
							③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価
事業目的	<p>○事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景</p> <p>○他事業・プロジェクトとの整合、関連</p>					<p>○維持管理主体、維持管理時期、維持管理内容を記載</p>	④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価
事業概要	当初工期	H00~H00	費用対効果(当初時)	0.00	事業費(千円)		財源内訳(千円)		
	最終工期	H00~H00	費用対効果(評価時)	0.00	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)				100,000	50,000	10,000	36,000	4,000
	最終事業実績(主な工種)				100,000	50,000	10,000	36,000	4,000
事業期間の延長・短縮理由と分析						⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)	評価	
事業費(予算)の増加・縮減理由と分析						改善措置の必要性	○評価箇所における修繕等が必要な事項とその対応について記載		
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					評価	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	○反省を踏まえた改善点	
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○交通の利便性向上(アクセス向上、交通の円滑化)・・・交通量、旅行速度、混雑度等</p> <p>○交通の安全性向上(歩行者等の安全確保、災害に強う道路の確保)・・・事故件数、災害時通行止件数等</p> <p>○農山村生活・生産機能向上</p> <p>○農業生産力、農業施設の機能向上</p> <p>○災害の防止・・・完了後の災害履歴、雨量等、施設の維持管理状況</p>						○プロセス上の評価	
	間接的効果(定量的・定性的)	○生活環境・自然環境への影響					部意見		
							行政改革課意見		



番号	○	事業名	○○○	市町村名	○市	路河川名	(○)○○線 <(○)○○○号>	箇所名(ふりがな)	○○(○○○○)
----	---	-----	-----	------	----	------	------------------	-----------	----------

○位置図、平面図、標準横断面図、構造図、模式図 など

※事業概要説明にあたっては、図表でわかりやすく説明する(説明コメントを付す)

○完了後の豪雨状況表(発生日時、雨量、施設点検状況)

○交通量の整備前後データ比較

○旅行速度の整備前後データ比較

○事故件数の整備前後データ比較 など

※事業効果説明にあたっては、グラフや図表でわかりやすく説明する(説明コメントを付す)

別紙

○事業の必要性を説明できる写真

(被災状況、劣化状況、保全対象、事業計画時の課題、周辺環境など)

○事業の経過を説明できる写真

(事業計画時、事業着手前、事業実施中、事業完了後、現況など)  
(事業期間、事業費の増減理由となった事象など)

○事業の効果を説明できる写真

(施設整備状況、復旧状況、利用状況、維持管理状況など)

○周辺環境、課題、新技術などが説明できる写真

(周辺観光地、幅員狭小箇所、屈曲箇所、災害危険箇所、新技術など)

※多様な写真で事業をわかりやすく説明する(説明コメントを付す)